

第二十四回青少年武徳祭

拳正会 A さくら塾 中学校一年 袴田 直

今回の武徳祭では、僕は今までの稽古の中で一番上手くいったと思います。礼のタイミング、立ち上がりや座礼など、それぞれが、今回がベストだと思います。拳正会 A チームのリーダーとしては、本番で上手くいくのはとても嬉しいことです。

僕は他の人と比べ緊張しやすいタイプです。しかし、演武リーダーとして選ばれた時は驚きましたが、絶対上手くいくように頑張ろうと考えました。

演武のメンバーは、僕以外小学生なので、練習中に気がゆるみがちになり前回の練習内容を忘れていた事が多々ありました。本番当日は何があるかわかりませんが、練習ではスムーズに出来なかったと思います。

結果として、本番では上手く出来ましたが、練習でもっと頑張っていると更に良い演武が出来ていたと思います。

今回の演武の成功、練習での反省点を活かして今後の稽古、人生に役立てていこうと思います。

第二十四回青少年武徳祭

拳正会 A 静岡道場 小学校六年 柴崎 勇也

今日は、武徳祭でした。武徳祭が始まったらまず開会式をしました。その時から緊張が止まりませんでした。

演武では、刀、くない、ヌンチャク、六尺棒などいろいろ使っていました。

そして、拳正会 A チームの演武が始まり、正座、座礼、立礼など型以外でもしっかりそろっていたと思います。

型はまずアーナクターからやりました。いつもより倍以上の力が入っていて、すごくキレがあつて「すごいなあ」と思いました。

僕は、ワンシユウの型をしましたが、最後の気合いが上手く出せなかったけど、今までが一番良く出来たと思います。

閉会式で、拳正会が団体最優秀賞をもらいとてもうれしかったです。

第二十四回全国青少年武徳祭

拳正会 A さくら塾 小学校五年 荻野 叶汰

七月十四日(日) 全国青少年武徳祭があるので、七月十三日まで、Aチームのみんなと演武の練習をしました。

僕は、ワンシユウ組でみんなと一緒に型の練習をがんばりました。最初はバラバラだった型も、ポジションやみんなと合わせる練習をしていくとだんだん、面白いポジションや動きが出来るようになりました。

そして、ついに全国青少年武徳祭の日がやってきました。本番では緊張しましたが、みんなの前で練習通りに出来てよかったです。

団体演武では拳正会が最優秀賞で、個人ではチーム全員、賞、メダルをもらえてうれしかったです。青少年武徳祭で、団体最優秀賞をもらえて、いい思い出になりました。

第二十四回全国青少年武徳祭

拳正会 A さくら塾 小学校五年 松永 都瑚

私は今年、初めて青少年武徳祭に出場しました。当日、京都市旧武徳殿に着いてみるとものすごく緊張して来ました。心臓がバクバクしました。そんな中で挑んだ武徳祭はとても上手く出来たと思います。

演武型のアーナクターは、何回も何回も練習しているうちに、大きな課題が見つかりました。それは、「飛び込み」です。「飛び込み」は、アーナクターの型をする上でとても大切な事です。練習をしてもなかなか上手く出来ず、時には泣いてしまった事がありました。その試練を乗り越えて、もっと練習をしていたら、

やっと出来るようになりました。

私は、「練習は裏切らない」と、そう思いました。本番では、練習の成果をはっきりさせる事が出来たと思います。全員で演武の息を合わせられたのも、いつも練習を見ていただいていた先生方のおかげです。

先生方、そして、いつも陰で支えてくれているお母さん。本当にありがとうございます。

第二十四回全国青少年武徳祭

拳正会 A さくら塾 小学校四年 鈴木 竜之助

僕は、青少年武徳祭に出場しました。いつもは一人でしている型だけど団体演武なので合わせていく事がとても難しかったです。

演武の練習を始めた頃はなかなか息が合わずバラバラでした。みんなで話し合いをし、先生方も沢山のアドバイスをしてくれました。全員そろって練習する時間が少なく、合わせられるか心配だったけど本番では一番うまく出来たと思います。拳正会が、最優秀賞をもらえたのでとてもうれしかったです。

青少年武徳祭に出場し、みんなで型を合わせるのが大変だったけど合わせる事が大切だと思いました。とても良い経験が出来たと思います。

がんばれた武徳祭

拳正会 A さくら塾 小学校四年 森 草亮

ぼくらは武徳祭にむけて、練習をしていました。その時ぼくは、なかなかそろわないから、すこし、「大丈夫かなあ」と心配していました。本番ではすごく緊張していて、みんなもやはり緊張していました。

演武が始まった時には緊張を忘れ、ただ演武に集中していましたが、演武が終わるとまた緊張が戻ってきました。集中していた本番が、一番出来ていたと思います。

僕たち拳正会は、団体最優秀賞を取り、個人では努力賞を取りました。武徳祭は、みんなががんばって賞を取れたのでうれしかったです。参加する事が出来てよかったです。

仲間とがんばった武徳祭

拳正会 A さくら塾 小学校四年 小川 蓮央

武徳祭の練習を始めた最初の頃は、あまり上手くみんなと合わせることが出来ませんでした。練習を重ねていくうちに、少しずつですがみんなと型が合つて来ると、団地で型をするのが楽しくなつて来ました。

型をみんなで合わせている事で、自分の型の間違っている部分を先生や仲間達に教えてもらえて、自分の型が上達してうれしかったです。

武徳祭の練習は大変だったけど最後までみんなががんばった結果、本番では練習の時よりも上手く出来たし、拳正会が最優秀賞をもらう事が出来てとてもうれしかったです。

また、青少年武徳祭に出れたらもう一度最優秀賞をもらいたいし、個人でも賞をもらえるように稽古をがんばっていききたいと思います。

第二十四回青少年武徳祭

拳正会 A さくら塾 小学校四年 美濃部 樹

僕は武徳祭に出ました。出る前はすごく緊張しましたが、みんなの型などを見て「すごいなあ」と思って、自信をもてました。

練習で先生に何回も怒られたけど、怒られたくないから一生懸命に練習しました。

本番で緊張して、息が合うか心配だったけど、型をやったら気合いもそるい気持ちよかったです。

刀やヌンチャクなどを使って演武している人を見て、「かっこいい」「やってみ

たい」と思いました。

閉会式で拳正会が団体最優秀賞と大きなトロフィーをもらえました。僕は、メダルがもらえたのでうれしかったです。

武徳祭を終えて

拳正会B 静岡道場 高校二年 南 妃咲

私は、拳正会Bチームとして清水道場の人達と演武を行いました。静岡道場は私だけでしたので、不安だったのですが練習を重ねるにつれてみんなと動きが合って、うれしかったです。

武徳祭当日になって、他流派の人や全く違う武道の人が上手な演武を行った上、私はずれてしまったので団体最優秀賞を頂けるのか心配でした。ですが、拳正会Aチーム、Cチームがとてもそろった演武を行ったので、団体最優秀賞を頂けることができ、更に個人賞の銀メダルを頂きました。終わった後、金メダルが良かったなと思いましたが、自分の力は金に達していないことが分かったので、これからの練習でもっとキレがあり、綺麗な型を目指していききたいと思います。

初めての武徳祭

拳正会B 清水道場 中学校二年 榊原 輝

僕は、今回が初めての武徳祭出場でした。旧武徳殿というとても歴史があり、そこで演武をする事を目標としている武道家の人もいると言う話しを聞きました。自分がそれ程の場所ので、素晴らしい演武が出来るのかという不安と、これ程の貴重な経験はないのだから楽しんでいこうという二つの思いが入り交じっていました。本番でベストな演武が出来るように、仲間たちと協力し全員で息を合わせ練習をしました。練習中、上手くそろわない所もありましたが全員で話し合いをしたりして、本番では納得のいく演武が出来ました。

そして、団体最優秀賞を頂き、個人では奨励賞という素晴らしい賞を頂きました。

これまで指導して頂いた先生方、協力して頑張ってきた仲間たちに感謝をして、これからも日々練習と努力を続けていきたいと思っています。

初めての武徳祭

拳正会B 清水道場 中学校二年 赤堀 匠海

僕は、今年初めて武徳祭に出場する事になり、最初、「自分なんかが出場しても良いのか」と思いました。

そして、練習を始めると最初と最後の礼がそろわず本当に礼がそろうのかと思いました本番では、みんながんばりそろって礼が出来たので良かった事です。

最初は演武で、セイサンをする予定でしたが、型の人数をそろえるために、ワシユウをする事になりました。演武の練習をするのに困ったのが、仲間たちとテンポが合わなかったことです。自分のテンポと合わずチームの仲間たちに迷惑をかけてしまいました。

武徳祭当日は、個人奨励賞を頂きとても良かったです。

特別な武徳祭

拳正会B 清水道場 中学校二年 清水 健士朗

僕は、この武徳祭に参加したのは初めての事でした。しかも、奉納演武を行うという特別な役目を任せられることになり、先生から説明を受けた時には驚きまじりました。

また、奉納演武の重大さを知り、こんな重要な役目をぼくが立派に出来るのか心配になりました。でも、一生に一度出来るか出来ないかという光栄な事なので、喜ぶ気持ちでいっぱいになりました。練習では、神前での舞台をイメージして、最高の演武が出来るように努力しました。当日は、神前で練習の全てを演武に発揮出来たと思います。緊張しましたが、奉納演武は僕の人生の中でとても貴重な経験となりました。

その後、旧武徳殿で演武が始まりました。練習ではみんなの気持ちと技を合わせる事に、何度も何度も努力して来ました。練習を積み重ねていくごとに演武が合つていき、これなら本番でも大丈夫だと思えるようになりました。

本番では、緊張の為か自分自身納得のいく演武が出来たのかどうか分かりませんでした。閉会式で団体最優秀賞を頂いたので、そこで自分たちは良い演武が出来たのだと実感しました。個人では、奨励賞を頂きとてもうれしかったです。



他流派の演武を拝見させて頂き、色々学ぶことも出来ました。これからも日々練習を重ね、今回の演武よりも更にグレードアップしていきたいです。

かっこいい個人奨励賞

拳正会B 清水道場 中学校二年 柴田 修翔

今回の全国青少年武徳祭で個人奨励賞を頂きとてもうれしかったです。いつもの大会とは違い、全員で型を合わせる練習をして来ました。こういう練習は初めてするので、始めはとても難しくどう練習をすればいいのか分かりませんでした。ですが、全員で練習するたびにどんどんそろっていきとても気持ちが良くなりました。

他流派の演武もとてもすごかったです。剣を使ったり、棒を使ったりとてもかっこ良かったです。小さな子から大きな子まで、キレッキレでした。

人生の中で武徳祭に出演出来るのかどうかかむずかしい中で、個人奨励賞メダルを初めて頂きとてもうれしかったです。ありがとうございます。

武徳祭

拳正会B 清水道場 中学校一年 清水 麻琴

私は、今回初めて全国青少年武徳祭に参加しました。初め先生から武徳祭へ参加すると聞いた時にはそれがどういうことかよく分かりませんでした。その後、インターネットで調べると会場の武徳殿は武道の聖地だと分かり、すごい場所で演武するのだと思いより一層練習に力が入りました。

最初の練習ではみんながそろわずに、武徳祭までに間に合うのか心配でしたがみんなで話し合つて、タイミングを合わせ何度も練習しました。

そして、迎えた全国青少年武徳祭当日、自分たちの番が来て納得のいく演武を披露する事が出来ました。その結果として団体最優秀賞を頂き、個人では奨励賞を頂くことが出来ました。

また、空手以外の居合道・剣術・徒手空拳古武道などを間近に見ることが出来て、とても良い勉強になりました。

初めての武徳祭

拳正会B 清水道場 小学校六年 柴田 聡哉

僕は、今年初めて武徳祭に参加しました。武徳祭では、個人努力賞を頂きうれしかったです。

演武で一番気を付けていたことは、気合いと腰を下げる事とチームの仲間と息を合わせて型をすることです。その中で一番難しいと思ったのは、チームの仲間と息を合わせる事です。なぜかというところ、一人一人型をするテンポが違うし練習でも少しずらずれていたのでからですが、テンポを仲間達で決めて練習すると型が合うようになりました。

武徳祭当日でも、一番難しいと思っていたチームの仲間と息を合わせる事が出来たので良かったと思います。

団体最優秀賞も頂きとてもうれしく思いました。

第二十四回全国青少年武徳祭に参加して

拳正会B 清水道場 小学校六年 望月 楓

今回、団体最優秀賞を頂くことが出来て、とてもうれしく思います。

私は、小学一年生から空手道を学び、これまで個人として試合に出場することは何度もありましたが、チームで団体演武をするのは初めてで自分が足を引っ張ってしまわないか不安でした。演武の練習を初めた頃はみんなのスピードに合わせるのが大変で焦りもありましたが、でも、頑張るしかないと思い練習をしていくうちに、少しずつ息が合うようになりました。

その頑張りや、本番で団体最優秀賞という結果に繋がりに良かったです。私は、この経験を活かしてこれからも努力し続けたいです。

初めての武徳祭

拳正会B 清水道場 小学校六年 西原 桜太朗

僕は、今回初めて武徳祭に参加しました。参加すると聞いた時、演武会場はどれくらい大ききかな？どんな人達が演武をするのかな？という沢山の疑問が頭に浮かびました。そんな疑問を片隅におきながら、練習にはげみました。

練習で初めて合わせた時は、あまり上手く出来なくて、どうしたら合うのか考えて沢山の練習をしました。その中でも特に合わなかったのが、初めと終わりの座礼です。何回練習してもリズムが合わず、仲間の誰かがずれてしまう事がありました。練習では、合わないうちに武徳祭当日になりました。

演武が始まった時、僕は緊張していました。初めの礼は、僕はそろっていたと思います。演武が終わって、最後の礼がずれたと思いますが、後で友達に聞く「合っていたよ」と言ってくれたので、僕はとてもうれしかったです。

そして、僕はまた武徳祭に参加したいと思いました。

思い出の武徳祭

拳正会B 清水道場 小学校五年 前畑 伊織

僕は、団体最優秀賞を頂いてとてもうれしいです。

僕は、練習の時に礼が合わなくて出来るようになるのはとても大変でした。最初は型も、ぜんぜん合わなくて早い人と遅い人がいて僕は、遅い人の中の一人でした。けれども、数をかぞえてチームのみんなとだんだん合うようになりました。そのおかげで武徳祭前には、そろそろようになりました。

武徳祭当日になりました。僕たちの出番が近づいて来ましたが、興奮が高まって来ました。心臓がドクドクしました。でも、落ち着いて型をして結果は団体最優秀賞を頂いたのがうれしかったです。

僕は、個人では努力賞を頂きましたが、次に出場出来たらもっと良い賞が頂けるように沢山練習して上手く出来るようになりたいです。

武徳祭を終え

拳正会C 名古屋正武館 中学校三年 水野 太一

僕は先日の、第二十四回全国青少年武徳祭で拳正会として、団体最優秀賞を頂きとてもうれしかったです。また、個人としても優秀賞を頂いて少しですが、自分自身の成長を感じとても良い経験ができたと思います。

旧武徳殿は、一八九九年に建築された歴史ある木造建築物で、国の重要文化財にも登録されている演武専用の武道場です。こんなに立派な場所での演武することができ、終えた後ですが喜びがこみ上げてきました。

自分の未熟さも感じました。父がよく「空手は黒帯からが本番」だと言っておられます。これからは、できる限り大会に出場し多くの経験を積んで、黒帯として胸をはれるようになりたいです。

最後になりましたが、僕たちを武徳祭に参加させて頂き、ありがとうございました。

武徳祭に参加して感じたこと

拳正会C 名古屋正武館 中学校一年 水野 里紗

私は、青少年武徳祭に参加したことが自分にとっても良い経験になったと感じています。また、拳正会として団体最優秀賞を頂いたことと奨励賞を頂いたことは、自分の自信につながったとも思っています。

旧武徳殿という重要文化財にも指定されているとても素晴らしい場所で演武することができたことをうれしく思います。

また、あの緊張した空気の中で演武したことが、私の成長につながったと確信を持っています。

第二十四回全国青少年武徳祭に参加させていただいたことに、とても感謝しています。

またこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思っています。

武徳祭に参加して感じたこと

拳正会C 名古屋正武館 小学校五年 岩田 幸太郎

僕は、七月十四日に青少年武徳祭に行きました。まず思ったことは、武徳殿がものすごく立派だったことです。武徳殿は日本最古の武道場なので、絶対に失敗したくないと思いました。

まず、平安神宮にお参りに行きました。最初に思ったことは、中がものすごく広いということです。そしてその後、お祓いを受けました。これでケガをしなと思いました。

他の団体の演武を見て思ったことは、居合道と空手の二つの武道があり、いつもは見ない技がありました。その中には、棒術など色々な武器を使った演武がありました。

そして、ついに自分たちの番になり、今まで練習して来たことを全部出したいと思いました。結果、演武はミスが無く終わりよかったです。

拳正会は団体最優秀賞を頂きました。ですが、自分は優秀賞には選ばれませんでした。次は出れるかどうかかわからないけど、次はもっといい演武がしたいです。

武徳祭に行つて

拳正会C 名古屋正武館 小学校四年 加藤 煌揮

七月十四日の日曜日に、青少年武徳祭に行きました。そして、ぼくは型で「拳手法」と「平安二段」をやり見事に、名古屋正武館は静岡県の二チームと共に拳正会で、団体最優秀賞を頂きともうれしかったです。

静岡県の方は動きがするどいのに、安定していてかっこよかったです。

武徳祭には、空手以外の方も居合道や武器の演武も見れてすごく楽しかったです。その中でも、特に船のオールみたいな武器を使っていた人がすごくかっこよかったです。

青少年武徳祭に出ていた人みんなが、かっこよかったです。

もう一度出るために沢山練習して、太一君みたいにもっとむずかしい型をみんなの前で行いたいです。

青少年武徳祭

拳正会C 名古屋正武館 小学校四年 安田 駿太郎

拳正会は、最後まではりきり団体最優秀賞を頂きました。

団体最優秀賞を頂いた時の気持ちは、心の中で「やったー」と思いました。なぜ「やったー」と思ったかというと、何年かに一度というとても大事な戦いだったからです。できれば、もう一度戦えたらいいなあと思いました。

開会式の時に、本部長が「ぜったい勝つと思いつける」と言っていました。

僕は、本部長の言う事を信じて心の中で「ぜったい勝つ」と思いながらやりました。

結果発表の時僕は、怖くてドキドキしていました。

「団体最優秀賞、拳正会」

と呼ばれた時、部長の言葉を信じてよかったです。

僕は、空手で初めてメダルを頂きました。

これからも一生懸命練習します。

がんばった武徳祭

拳正会C 名古屋正武館 小学校四年 小池 壹空

ぼくは、青少年武徳祭に初めて参加しました。拳正会Cの型の時は、すごくドキドキしたけど沢山練習していたので、あまりミスをせずやりきれました。

他の武道の型を見て、色々な型があつて勉強になりました。

そして、拳正会が団体最優秀賞を頂いてとてもうれしかったです。拳正会は、三年連続で団体最優秀賞を頂いているので、すごいなあと思いました。

これからも、一生懸命練習してもっと上手になりたいです。

第二十四回全国青少年武徳祭

拳正会C 名古屋正武館 小学校四年 大庭 英佑

ぼくは、七月十四日に青少年武徳祭に行きました。ぼくは、到着した時におどろきました。想像以上に演武をする所が大きかったからです。こんなすごい所で演武できるなんて感激しました。だけど、逆に大きすぎて演武中に緊張してうまく出来ないかと心配になりました。

会場の外で、演武について友達と話し合いをして、それから会場の中に入りました。

入る時と出る時は、出っ張った所をふんではダメと教えてもらいました。

次になんと、平安神宮でおほらいをしてもらえると知つてうれしかったです。

おほらいはとても貴重な体験でした。おほらいが終わったら開会式が始まりました。僕たち拳正会は、午前中ほぼ練習をして終わりました。午後になって、最後

の練習をしていよいよ本番になりました。

ぼくは、やっぱりとても緊張してしまいましたが、できるだけ練習をしてきたことを思い出しながら演武しました。

終わった後、先輩が「よかったよ」と肩をたたかれましたので、とてもうれしかったです。

メダルや賞状ももらえて、とても楽しかったです。

がんばった武徳祭

拳正会C 名古屋正武館 小学校四年 金田 蓮央

ぼくは、武徳祭の演武をうまくできるように、練習をがんばりました。

西野先生にほめられて、とてもうれしくてもっとがんばろうと思いました。

そして、武徳祭で自分の番までまつて、ついにぼくたちの出番きたと思って、ぼくは、とても緊張してきました。

演武中も、ドキドキしていました。演武が終わって閉会式の時、団体最優秀賞を頂いたのでとてもうれしかったです。

メダルも頂きとてもうれしかったです。

もっとがんばつて、大会でメダルを頂きたいです。

初めての武徳祭

拳正会C 名古屋正武館 小学校四年 杉山 陽人

ぼくは、七月十四日に行われた青少年武徳祭に出ました。初めて出たので、最初は緊張しました。演武は「平安二段」をしました。

煌輝君が前の合わせる人で、後ろを合わせるのが、ぼくだったのでうれしかったです。

ぼくは、空手をしている人だけが来るのかと思つていたけど、居合道の人達も来たのでびっくりしました。

そして、ついにぼくたちの出番になって、ぼくの心臓はドキドキしていました。「平安二段」のどちゅうで間違えてしまっただけ、最後まできちんとできたので安心しました。

家に帰ったら、お父さんに、

「おつかれ」

と言ってもらえたのでうれしかったです。

青少年武徳祭に出場して

拳正会C 名古屋正武館 小学校四年

松浦 蒼空

七月十四日にみんなで青少年武徳祭に出場しました。

場所は旧武徳殿と分かっていたのですが、初めて見た時ふつうの体育館とはちがいで、外から見た感想は神社のお宮に似ていたのですごいと思いました。

そこで僕たちが演武する順番になった時、少し緊張しました。

演武をしている時は、たくさんの人に見られ緊張しましたが、とてもすごい場所だったので成功してすごく気持ち良かったです。

これからまたあつたら出場したいです。なので、いっぱい練習します。

今年の大会

至誠館 中学校二年

榊原 優那

今回は、中学校に入ってから初めての大会でした。

先生方から細かいところまで丁寧に教えていただいたので、技は頑張ってきたと思います。

ですが、技が終わり刀札の時、刀を鞘から落としてしまい、焦って刃の方を持ってしまいました。

模擬刀だったので良かったですが、真剣だと考えると大問題でした。

これからは、しっかりと斬ることを想像し、今回のようなことがないようにしていきたいです。

青少年武徳祭を終えて。

至誠館 小学校六年

上野 航輝

僕は、今年も青少年武徳祭に出場させて頂きました。僕は、大会を目の前にして、いつもよりも、去年よりも、努力し魂を燃やして練習にはげみました。今年こそ最優秀賞をとりたい！という思いが強くなりました。そして、個人賞もとりたかったです。京都に着くのが少しおそくて、午前の部の方の演武は残念ながら見られませんでした。ですが、午後の部の方の演武は見られました。カラテは、声にとってもはく力があり、圧ばくされました。ごさを切る演武は、とてもきんちよう感がありました。そして、とうとう自分の番がやってきました。まずはAグループからで、Aグループの方は、二年生も、一年生も上手くできていました。

そして、自分のBグループの番が回ってきました。とってもきんちようしました。回りの視線が少し気になりましたが気にせず、練習の成果を出して、演武をしました。ですが、最優はとれずに、それ以前に、個人賞すらとれませんでした。まだ全力を出しきれないのかと思いました。もっと全力を出せるようにがんばります。

武徳祭を終えて

至誠館 小学校六年

伊藤 結月

今年は、小学生最後にして二回目の武徳祭でした。今回、初めて模擬刀を持つて参加できました。

模擬刀所持の許可が下りたのは、昨年冬でした。居合を始めてまだ1年も経っていませんので、正直、舞い上がるような思いでした。最初、納刀に苦戦して、少し難しいと思ったところもあったけれど、稽古の積み重ねと先生方のわかりや

すいご指導のおかげで、大会の前に余裕を持てるようになりました。

当日、武徳殿を目の当たりにし、本格的な武道の世界に入ったんだということを実感しました。緊張はあまり感じず、日ごろの稽古で教えていただいたこと、学んだことを精いっぱい出し切ろうと思いました。

演武が始まった時、さっと緊張感が走り、少し心配になりました。そのため、前半はあまり堂々としていなかったのですが、後半になるとやはり慣れてきて、すっかりと前を見据えて刀を振ることができました。初めて参加した去年よりも堂々と演武できたかなと思いました。

そして、表彰式。思いがけないことが起こりました。模擬刀での参加は初めてだったので、個人賞が取れるとは思っていませんでしたが、なんと個人奨励賞をいただくことができました。しかも、団体賞も獲ることができ、私は初めて模擬刀を持った時よりも舞い上がっていたと思います。

次の大会は、個人優秀賞を目指したいです。そのために、一回一回の稽古を大切に、努力を重ね、上達していきたいと思っています。

全国青少年武徳祭について

至誠館 小学校五年 中村 周平

今年の全国青少年武徳祭では、初めての経験をしました。初めて一番前で演武をして、初めて努力賞をもらいました。

開会式が終わり、午前の部が終わり、いよいよ午後の部が始まりました。そして、ぼくの集中スイッチはオンになりました。「目をはなさない」それだけを考えて演武しました。今までより自信を持って演武を終えることができました。

そして、閉会式。最後まで僕の名前は、よばれませんでした。「至誠館」という団体名で「まだ賞をもらっていない人」とよばれました。努力賞でした。また団体賞をもらえたうれしい気持ちと個人では努力賞だったくやしい気持ちが心の中でごちゃ混ぜになりました。来年はもっといい賞を取りたいです。

全国青少年武徳祭に参加して

至誠館 小学校四年 金子 りん

わたしは、全国青少年武徳祭に出ました。あまりミスもせず、声も大きく出せたと思います。堂々と楽しくできました。今回で大会は二回目で去年と比べてしせいや形が良くなったと思います。

古武道を始めたきっかけは、学校で配られた手紙を読んできょう味を持ち体験に行きました。体験が楽しかったので始めることにしました。一年前に入り、今は居合もぎ刀を持たせてもらっています。とてもうれしいです。これからもがんばります。古武道を始めてから、いろいろなことを教えてもらって、時々、お母さんやお父さん、お友だちに教えてあげています。



こぶどうのたのしき

至誠館 小学校一年 きたごう のりこ

私は、たのしそうだったからこぶどうをはじめました。きょうとのえんぶかいでは、いろんなことをしました。きがえのときがすこしむずかしかったです。おべんとうがとてもおいしかったです。えんぶのときは一ぼんめのところがいちばんじょうずにできました。二ぼんめのところは、かたながぐらぐらするからどきどきしました。

五ぼんめのぬきうちのところは、ひざをまげるのをがんばりました。つぎのえんぶかいのときは四ぼんめのななめですわるのをがんばりました。



こぶどう

至誠館 小学校一年 おおこうち りょうすけ

ぼくは、からだがつよくなりたいからこぶどうをはじめました。

こぶどうのれんしゅうはたのしいです。いちばんたのしいことはけんをふることです。けんをふるとき「えい」っていうのがかっこいいです。いつもおおきなこえで「えい」ってっています。

こぶどうのせんせいはやさしいです。おもしろいせんせいもいます。

こぶどうのたいかひはかたなをもたないでパンチしているひとがいてぼくもやってみたいとおもいました。フオークみたいなぶきをもっているひともしあぶないとおもいました。でもじょうずで、すごいとおもいました。

ぼくのばんのときはドキドキしました。でもちゃんとできました。たのしかったです。

ぼくのグループのおにいさんとおねえさんはかっこよかったです。ぼくもおにいさんおねえさんみたいにかっこよくなりたいです。

これからもこぶどうのれんしゅうをがんばりたいとおもいます。

青少年武徳祭に初めて団体最年長として参加して

こぼと修童館 横井 鉄也

今回の青少年武徳祭には今までと違って団体最年長者が僕だったのでとても緊張しました。二年前の武徳祭に出て以来練習にもろくに顔を出していませんでした。初対面になる小学生を二日間纏めなければいけないというプレッシャーがとても強かったです。幸いにも以前フランスのクレルモンフェラン市で開催された武徳祭に参加した時のチームメイトが今回は四人も参加してくれていたのでも心強かったです。先程書いたように全く練習をしてなかったので他の小中学生の足を引っ張らないか、しっかり団体最年長者としての責任を果たせるかが心配でしたが結果的に成功に終わってよかったです。今まで団体最年長として人

をまとめ、指示する側になったことがなかったのでとても貴重な体験になりました。今回、大会に参加したことで自分の課題が浮き彫りになりました。それは主体性の無さです。後半はチームメイトにも慣れ、話せるようにはなりましたがそれでも先生方の意見を聞くまで自分からは何も行動できなかったし、小学生をまとめる時も中学生や保護者に頼りきりになる機会が多く自ら行動することがとても少なく感じました。他の団体を見ても最年長と重われる人がしっかりまとめている。なので今後は他人をまとめる立場になっても物怖じせずに纏め切れるようになりたいと思いました。

「もっと上を目指すため」

こぼと修童館 中田 花

七月十四日私たちは第二十四回全国青少年武徳祭に出場しました。私は今回、四回目の出場となり、チームを引っ張る役としてもとても緊張していました。自分のこと以外にも、私より出場数が少ない子や、初めて出場する子にもどうい風風に動作をするのかを細かく教えていきました。

当日に練習をしているときは、みんなが落ち着いていて、見せ場となる技もしっかり音が出て演武をしていたので、私は今回、最優秀賞をとれると思いました。

そして演武が始まりました。順調に技を終えていき、見せ場となる技が来ました。ヒュッとみんなの音がそろい、とても良い雰囲気だと思いました。今回、他のチームの演武を見ていて、一つ一つのチームに良いところがありました。作法をしつかりしているところや、声が全体的に大きいところ、演武のメリハリがあるところなど、私たちには無い所がある部分が多かったです。

そして表彰式になりました。団体最優秀賞が発表されました。それは、自分たちのチームではありませんでした。その時は、少しショックでした。でも、私たちの今の精一杯を出すことができたと思えるので心残りがなく演武ができて良かったです。だから私は、最優秀賞をとることができなくても良かったと思います。しかし個人賞で驚くべきことが起きました。それは、私が、個人で最優秀賞をとることができた事です。私は自分自身で、個人賞をとれるなんて思ってもいなかったもので、とてもびっくりしました。呼ばれたので前に出てカップを手にする

ると、カップが意外と重く、最優秀賞のすごさが伝わったような感じでした。たくさんさんの選手が出場する中で、このような素晴らしい賞を私にいただくことができ、とてもうれしかったです。しかし私にはまだまだ成長できる部分があると思っています。そこを少しでも直して、もっと自分自身が納得できるように演武をして、団体でも最優秀賞が取れるように頑張ります。そして、またいろんな自分の課題点を見つけ、もっと上を目指せるような人になりたいです。

武徳祭に参加して

こぼと修童館 山岸 大真

「気をつけ」「礼」今年の武徳祭が始まった。前は二年前の五年生、夢中で声をかけ、演武してあまり覚えていない。でも、今年は中学生になって、直前にしっかりと先生に稽古をして頂いて自信をもって参加できた。いざ本番が始まるとやはり緊張した。武徳祭の張りつめた空気、武徳殿の床の音、心が引き締まった。緊張の中でも、空気や音を感じることができたことは、自分が成長したということなのかと全てが終わったときに思った。

別の小学校、中学校、高校の友達や先輩といっしょに稽古をして、本番の演武ができることは、普段の学校の勉強や部活動とは違った経験をすることができるので、本当に大切にしたい時間だと思っている。いつも励まし、ご指導してくださる先生方、友達、ありがとうございます。これからもいっしょにがんばりたいです。よろしくお願いします。

全日本青少年武徳祭を終えて…

こぼと修童館 松田 暖生

僕は、第二十四回青少年武徳祭に出場して学んだことがあります。

僕は、今年でこの大会に出るのは三回目になります。しかし、まだ個人賞をとることができていません。周りの人たちが賞をとっているのに、僕はまだ賞を

とっていないのが、とつてもくやしいので、今年は中学生になって、部活と勉強がいそがいそいけれど、一生懸命、練習をがんばりました。その結果、「個人奨励賞」をとることができました。練習の成果がでたのではないかと思います。濱田先生が「ベストを出しきれ!」とおっしゃられたので、その言葉を合言葉にし、本番に望んだら、賞をとれたので、とつてもよかったです。

これからも、「ベストを出しきれ!」を合言葉にしていき、居合道にも、その他の部活や勉強などにも生かしていきたいです。

二回目の武徳祭

こぼと修童館 中谷 心美

私は、二回目の武徳祭で個人奨励賞を受賞しました。去年、団体で奨励賞を受賞しました。でも個人賞は取れませんでした。なのでまさか、自分の名前が呼ばれるとは思っていませんでした。本番の前に少し練習をしました。でも、まちがえたところもあつたので本番でまちがえたらどうしようと思いました。でも身をひきしめて本番にいどみました。

練習よりも上手に大きな声を出して演武することができたのでよかったです。来年は、中学一年生になるのであまり練習にいけないかもしれないけど、先生に教えてもらったことや今までの練習の失敗したことをいかしていきたいと思っています。私の目標は、中学三年生の中田花さんです。なぜなら、個人最優秀賞を受賞したからです。私も来年個人最優秀賞を受賞できるように努力していきたいと思いました。

武徳殿

こぼと修童館 十川 該大

僕は居合道で武徳祭に参加するにあたって、「しっかりと演武できるかな?」少し不安な気持ちがありました。それは、他の習い事をやっていることもあり四月

五月の練習に参加する回数が少なかったからです。なので武徳祭に向けて練習時間が長くなった六月は休まずに練習に取り組みしっかりと準備ができました。武徳祭の前日、僕は少し緊張していました。でも「こぼと修童」のみんなで移動するバスに乗ると気持ちが落ち着いて来ました。武徳祭がおこなわれる京都のホテルに着いた後チーム全体三十分間の練習をしました。立ち位置を確認し、もうばつちりと思えました。当日はバスに乗り会場の武徳殿に向かいました。僕たちの出番は開会後の午後からです。昼食をとり、いよいよ僕たちの出番が近づいてきました。武徳殿に入ると、空手の演武が行われていました。僕はそれを見ながら気持ちを落ち着かせました。そして空手の演武が終わりました。僕たちの出番がやってきました。僕の立ち位置につき礼をして。基礎居合を始めました。一本目を心をこめてふりました。そして基礎居合が終わり本居合が始まりました。本居合もしつかりと心をこめて自分のベストでやることができました。僕たちの演武が終わりいろんな人のやっている演武をしつかりと見ました。その後閉会式が終わり武徳祭が終わりました。そのあと僕は、自分で練習したことをしっかりとほっつきされたと思えました。

全国青少年武徳祭

こぼと修童館 小学校五年 西東 和真

令和元年七月十四日の日曜日に、京都市旧武徳殿で、全国青少年武徳祭が行われました。

平安神宮での奉納で、中村姫梨さんの演武がすごく上手で、かっこいいなと思いました。

大会の演武で、六年生の不破君が、大きな声を出したことによって、ぼくもつられて大きな声を出せました。それで、緊張がほぐれて演武がうまく出来たと思います。一番うまく出来たのは、本居合の五本目です。

全部の演武が終わって、表彰式がありました。こぼと修童館は、団体しようれい賞でした。賞をとれてうれしかったけれど、やっぱり、最優秀賞をとりたかったです。

中田花さんが、個人の最優秀賞をとっていて、すごいと思いました。

ぼくは、今年努力賞をもらいました。来年は、個人のしようれい賞をとりたいです。次からの練習を、もっと頑張ります。

京都大会

こぼと修童館 西出 唯人

ぼくは、今回で二回目の京都大会でした。正直、大会に向けての練習の時、自分は号令係で「れい」、「進め」、「退場」と声をかけていました。そして、声をかける順番が、大会本番のときも、はつきりとわかっていなくて不安でした。それまでの不安は大会前日の友達との出来事で少し安心に変わったかなと思います。大会前の平安神宮へ行った時は、人が多く熱すぎて、周りのことを考えられなく、集中もできず、ちゃんと演武でできるかそのことにも不安でした。

今思うことは、大会の時、号令のことや、集中するということや頭がいっぱいになっていて本当に演武は、全力でやれたのかと思うと、だめだったんじゃないかなと思います。こうかいています。だけど今までで一番そろえれたと思うので良かったと思います。

全国青少年武徳祭

こぼと修童館 元野 晃也

七月十四日に京都の武徳殿で居合をひろうしました。武徳殿はとても広くてひろうする人や見に来ている人がたくさんいました。なので居合をひろうする前はとても緊張しました。今まで練習をたくさんしたので本番は失敗しないようにがんばりました。

そして全力でがんばれたので失敗をせずにえんぶができたので良かったです。自分たちの番が終わったあとほかの居合道を見てみると自分たちがやっている本居合を基礎居合と言っている居合道があったのでびっくりしました。そしてぼく

の個人賞の結果が銅メダルだったのでとても喜んでました。次の武徳祭では、銅ではなく銀や金をとれるようにもつとがんばりたいです。そして団体えんぎでもつと自分がついていけるようにして、みんなと動きをあわせてもつと良いえんぎにしたいです。

全国青少年武徳祭

こばと修童館 山越 唯衣花

わたしたちは、京都で行われた「全国青少年ぶとくさい」に行きました。初めていくので、きんちようしました。観光で二条城に行きました。とてもきれいでした。始まる前に、練習いっぱいまちがえてしまつて今まで練習をいっぱいしてきたみんなに、めいわくがかかると思い不安な気持ちにもなりましたがそんな気持ちを切りかえて、いいえんぎが出来てよかつたです。表しよう式で、団体賞がとれてとてもうれしかつたです。わたしは、こ人賞はとれなかつたけど努力賞がとれてうれしかつたです。来年はもつと、もつとうまくなつてこ人賞をとりたいです。今年、あいさつがいっぱいできたけど、来年は、他の人よりも大きな声で、もつと、もつとあいさつをしたいです。最後にわたしは、いあい道を続けていきます。

二回目の全国青少年武徳祭

日本戸山流居合道 向井 友悟

今年の武徳祭は、去年と違い団体だつたので、安心しました。だけど、自分達の番がくると、とても緊張しました。そのせいか一回だけ失敗してしまいました。けれど、その後の演武はうまくできたので、よかつたです。先生も「上手に出来たな。」と仰つてくれたので、嬉しかつたです。努力賞だつたけど賞状とたてとメダルがもらえたのでとても嬉しかつたです。今回失敗してしまつたので、来年来る時は、もつと腕をみがいて失敗せずに演武をして優賞したいです。

青少年武徳祭を終えて

正守和道塾 小学校六年 近藤 佑樹

空手を始めて五年目、古武道を始めて三年目に入ります。第二十四回全国青少年武徳祭は、初めて出場したときと同じくらい緊張しました。僕が被いの儀で演武をさせていただくことになったからです。本当に僕がやってもいいんだらうかという思いもありました。でも、一生懸命やりきろうと心に決めて練習しました。

本番はやはり緊張しました。旧武徳殿の真ん中で一人。緊張しすぎて少し間違えました。終わつたあと、「よかつたよ。」と声をかけてもらいましたが、まだほつとできない緊張感が残っていました。

団体では古武道部門で仁くん、るきくん、虎太郎くんと演武しました。僕は虎太郎くんとダイカンヌンチャクとしゅうしのこん(棒術)を演武しました。二年前、仁くんと日々練習し、フランスやここで演武をしたことを思い出しました。二年しか経っていないけど懐かしかつたです。虎太郎くんともびつたり息のあつた演武が出来たと思います。礼をして、全ての演武が終わりほつとしました。

これからも心、技、体の鍛錬に励み、たくさんの人と関わりながら武道をしていこうと思います。

青少年武徳祭に参加して

正守和道塾 渡辺 虎太郎

大日本武徳会の武徳祭 武徳殿の場所での演武会に参加できたことは凄く心に残る思い出になりました。

いろんな武術のえらい先生方たちと演武の、披露が出来たことやはじめての棒ヌンチャクを、披露できることで前の日から超ワクワクした気持ちで凄く楽しんでました。

お父さんもお母さんも見てくれるので気合いも入り一番大きな声も出せてた

と思います！

先輩たちともみんなで団体練習できたことも楽しかったです。

また来年も再来年ももっともっと技を磨きみんなが真似をしてくれるような注目されるような形を打てるように頑張つて練習していこうと思いました。

沢山写真も撮ってもらつて嬉しかったです。

応援に来てくれたお父さんもお母さんお姉ちゃん、このような機会を与えてくださった大会の先生方、その他お手伝いの方、本当にありがとうございました。

全国青少年武徳祭

正守和道塾 茂松 隼実

始まる前は沢山の人が見ているしドキドキした。上手く出来るかも不安だった。自分の出番がきて、上手に出来た！と思う所もあるけど、もつとこうしたら良かったなと思う所もありました。

初めて貰えたメダルと賞状はすごく嬉しかったです。

早く黒帯になれるように頑張りたい。

青少年武徳祭に参加して

一心無双流 剣心会 小田 朱乃

早いもので青少年武徳祭参加も三回目になりました。去年試斬させて頂いた時は、お父さんが私には内緒でいつもより少し太く巻いた巻き藁を用意していたようで、(無事斬ることはできたのですが…)「今年はやめてほしい」と念を押しました。

今年は六月の後半から本番に向けて練習を始めました。

今までは、本番が近づくにつれ緊張してきましたが、今年は去年より落ち着いてできるようになりました。父の本身で試斬と、納刀を無事終えることができよかったです。

青少年武徳祭に参加すると他の流派の居合の形や、空手の技など普段みることのできないものにふれることができとても楽しいです。

来年は今年よりも上手くなって、父が巻いた太めの巻き藁を切れるようになりたいと思います。

第二十四回 青少年武徳祭に参加して

大阪修武会 秦野 静

今回で二回目となる青少年武徳祭への参加。初めて参加したときはすごく緊張して思うような演武ができませんでした。今回は自分の今できることを全て出し切った演武ができました。一人で演武をすることもあまりないので良い経験ができたと思います。

中学二年になり部活動も忙しい中、自分なりに努力し取ることができた個人奨励賞だと思っています。

また、他の流派の方達の演武を見て良い刺激になりました。

今回見つかった改善点などを直せるようにこれからも頑張っていこうと思います。

武徳祭に参加して

武学館 小学校六年 後藤 瑞來

私は、今回の武徳祭で銀賞をもらいました。でもできれば金賞をもらいたかったのが本音です。

私は、全国青少年武徳祭のために、できるだけたくさん稽古に参加しました。先生の指導を受けながら、難しい技も少しずつ稽古を積み重ねて頑張りました。こんなに頑張ったのに金賞ではなく銀賞だったことは、とても悔しくて悲しかったです。これは今の自分の実力なので仕方がないと思えました。これからは、もつと稽古を頑張つて実力をつけたいと思います。

例えば、私は声が小さく、動きの切れもあまりよくなかったので、金賞をもらった選手たちのようにしつかりと声を出して、もつと切れのある動きができるようにしていきたいです。ありがとうございます。

自分を顧みる武徳祭

武学館 小学校六年 藤原 芙光

僕は、今回の武徳祭に参加して思ったことは、もつと稽古をしていればよかったと思ったことです。人の前で演武をするとき、緊張してガチガチになって頭の中が真っ白になって何をやっているのかわからなくなってしまい自分で納得のいく演武ができなかったと思います。

納めの儀に選ばれて武徳祭の最後の演武を行うときも自分の今までの稽古の姿勢を考えてしまいました。自分の前で演武をしている選手のすばらしい姿を見て「自分はこれでいいのか」と思い、すごいプレッシャーで押しつぶされそうになりました。

稽古の足りなさを顧みるばかりでしたが、とにかく一所懸命に頑張れるかぎり真剣に演武を行いました。逃げずにできるかぎり力いっぱい演武をやりきったことだけは今回の武徳祭で自分にとっていいところだと思います。

僕は、今年で小学校を卒業するので、次回の武徳祭に出られるかどうか分かりません。だから今回はとても大切な武徳祭となります。毎年武徳祭に出て反省するばかりでしたが、自分のいいところも悪いところもこの武徳祭で教えてもらったと思います。

もつと稽古をしなければならぬという反省を忘れずに、これから何事にもがんばっていききたいと思います。

日々の稽古と武徳祭

武学館 小学校六年 小泉 美咲

私は、第二十四回青少年武徳祭において銀賞を受賞しました。私は、小学四年生から空手を始め、普段週四回空手の道場に通っています。今回武徳祭に出場するにあたり、一緒に演武した仲間だけでなく武学館のみんなにも手伝ってもらい練習をしてきました。今まで練習したことのない投げ技や受け身を初めてしたときは、上手くいきませんでした。練習を重ねていくうちに、どんどんそれらの技は上達していきました。しかし、一週間前に武徳祭のリハーサルをしたときには、時間内に演武を終えることができませんでした。リハーサルを重ねて、前日の土曜日に、やっと演武を時間内におえることができました。少し不安もありましたが、本番では自信を持って演武をすることができました。今回、銀賞を受賞できたのは、日々の先生のご指導とみんなとの練習があったからだと思います。この賞を励みに、これからも練習をしていきたいと思っています。

武徳祭に参加して

武学館 小学校五年 宮口 泰輝

ぼくは、リーダーに選ばれ、みんなをまとめる立場として武徳祭に参加しました。練習をしている時は、みんなのペースがずれていて合わなかったけれど、武徳祭当日になるとみんなそろえられるようになっていて本番でもうまくいきませんでした。それでも団体形の「四法」でしつかり技を決めるというのがあまりできていないと思ったのでこれからの稽古で気を付けていこうと思います。二人一組で行う八歩打相対動作では、しつかり技が決まっていたり、声が出せていたりしたのでよかったです。

ぼくは、この武徳祭でできなかった部分などをこれからの稽古の時間で直して次の武徳祭で生かして出られるようにがんばりたいです。それに次もリーダーとして出ることができれば、みんなのことをもつとしつかりできるようにまとめら

れるよう今後がんばっていきたいです。

副リーダーになった武徳祭

武学館 小学校五年 北嶋 優人

ぼくは、武徳祭で武学館Aチームの副リーダーになりました。リーダーはチームの前に立ってみんなを引っ張るので重要ですが、副リーダーは後ろから後輩たちをまとめて、全体をしつかり見ながら、いろいろと注意しなければならぬので結構大変だということがわかりました。

武徳祭の演武はなんとか最後までできたと思いましたが、突きや構えのところが一つ一つしつかり決めていれば、もっといい演武ができたと思います。

今回の武徳祭では、まだまだ直さなければならぬところがありました。今回の反省を稽古に生かして次回は完ぺきな演武ができるようがんばりたいです。

奨励賞をもらった武徳祭

武学館 小学校五年 四方 星凜

私は、審査の先生に日ごろの練習の成果を見てもらいたくて、この武徳祭に出ました。

大きな会場だったのですごく緊張してしまいましたが、いつもの練習の時よりも集中して頑張りました。自分を合わせて四人のチームだったので、他の三人と息を合わせながら、美しく声を出そうと意識しました。

私は、武徳祭に五年間出でて初めて奨励賞をいただきました。みんなの前で名前を呼ばれたのは恥ずかしいけれど、表彰されたことはとてもうれしかったです。頑張つて本当に良かったと強く感じています。

来年は、今年よりももっと稽古を頑張つてまたメダルやトロフィーなど個人賞がもらえるよう精進します。

また、この武徳祭では、いろんな分野の演武を見ることができ、お互いに学ぶ

ことができるよい演武祭だと私は心から思います。ありがとうございます。

青少年武徳祭

楠誠会館 厚見 心汰

今回の青少年武徳祭は、ぼくにとって初めてでした。

ぼくたちは居合の型と剣道形をしました。最初は居合の型で少し緊張していたら、選手誘導の人が、少ししゃべりかけてくれて、そのおかげで少し緊張がとけて自分なりに演武ができました。

けれど自分で点数をつけると居合の型は五十点くらいでした。

そしてお昼ごはんを食べてから剣道形の復習をしていたら自分たちの出番になって選手誘導の人ががんばりやって言ってくれて、うれしかったです。そのおかげで剣道形はうまくできました。

そのあとの閉会式でなにももらえないと思っていましたが奨励賞と団体努力賞をいただきました。

次もでたいなと思いました。

武徳祭に参加して

楠誠会館 家田 真希

子どもの大会があると先生からはじめて聞いてうれしかったです。

がんばつて練習したけど熱が長くでて練習をやすむことになりました。

ちゃんと練習ができなかったのでおぼえているかしんばいになりました。

大会の日とてもきんちょうしました。

さいしょに水心流の形をやりました。

みんなと練習できなかったからあわせるのができてるかしんばいでした。しんどかったけどさいごまでできたのでよかったです。

さいごにけんどう形のえんぶをしました。

あんまり練習できてなかったのですごくきんちょうしました。さいごまでしつぱいしないでやりきれたのでうれしかったです。次にやる時はもつとしっかり練習してじしんをもつともつてえんぶをしたいです。

子供たちの武徳祭

形意和真流唐手道武学館 藤原 弘喜

第二十四回全国青少年武徳祭が成功を収められたことをお喜び申し上げます。毎年全国青少年武徳祭に参加する機会に恵まれていることは、武学館の練習生にとつて誠に喜ばしいことです。今回は特にチームワークをテーマに演目を組み立て、普段の稽古の時から練習生同士が話し合つて武徳祭の準備に取り組んでいました。できるだけ大人が関わることなく、子供たちだけの力で一つの作品を作り上げる作業は、自然と自立心を養うことになりました。この武徳祭をきっかけに逞しくなつたような気がします。

仲間同士で休みがちな練習生に声をかけ、上級生が未熟な下級生に優しく指導し、時には同じ年同士がぶつかり合つたり、先輩たちが怖くて低学年が涙を見せたり、冗談を言つて笑いあつたり、本番に間に合うか不安になつてオロオロしたり、選手それぞれが、いろいろな経験を積み重ねて武徳祭の場に立ち、みんなで力を合わせて自分たちの技を披露することができました。武学館は、形意和真流唐手道を継承する武道団体ですが、子供たちの人間形成にとつて武道の技は道具の一つではないと思つています。伝統の技そのものよりも子



供たちにとつて技を学ぶ姿勢や稽古場の練習生同士のコミュニケーションが大切だと考えています。武徳祭に参加するということは、武学館が普段行つている「練習生同士が力を合わせる」テーマを体現化するとても大切な機会となっています。今回は、ほぼ子供たちだけで武徳祭に臨みましたが、まだまだ課題は残っています。ですが、この課題は、更に成長できる伸びしろであり、見守る大人や家族にとつて楽しみな可能性でもあります。日本の伝統武道の継承のためだけでなく、子供たちが成長できる場としていつでも全国青少年武徳祭が開催し続けていくことを心より願っています。全国青少年武徳祭に関わる諸先生方、またスタッフの方々のご尽力に心より感謝申し上げます。

全国青少年武徳祭を振り返つて

拳正会 田中 天心

令和元年七月十四日に第二十四回全国青少年武徳祭が盛大に開催されました。今年もできる限り多くの方に、青少年武徳祭に参加して頂き、武道の殿堂として歴史ある武徳殿での演武を自ら体感してもらい、また他団体の方々の、日本伝統武道の素晴らしさに触れてもらうべく、今年は今まで参加出来ない愛知、静岡地区の皆さんに参加を呼びかけました。今回は移動に時間がかかる為、各地区一〇名程度の参加取り纏めを依頼しましたが、希望者が多く最終的には約三十名の参加となり、チームも三チームに分かれての参加となりました。

各地区の指導者の方も初めて参加される方が多数の為、事前に今回の実行委員の荒木主席師範、検証委員補佐の岡田師範他の方々と共に赴き、武徳殿での行動規範、演武構成や心構えなどの説明会を実施しました。

青少年武徳祭への参加にあたり、参加者が協力して自主的に行動する事。チームとして団結力を高め意思疎通を大切に、協調性を育む事。個人の技量を競うのではなく、チームとしての同調性を重視する事。特に礼節については入退場時、演武の切り替え時などにチーム全員が一体となった行動をとる事。そして当日は自信をもって堂々と演武する事。などをお願いしました。

各師範の熱い指導や、チームの練習の成果もあり、はからずも三年連続で団体

最優秀賞を受賞することができ、また多くの個人賞を頂いた事は、子供たちの今後の自信につながった事と思います。

競技会の多くは個人競技であり、そこには勝敗があり、自己主義的な面が出てしまいがちになります。勿論競技ですから勝つことも大切ですが、指導者は武道を通して、体を鍛え、技を練り、心を育むことを目的とし、武道の修練の過程で、礼節を学び、継続する事の大切さ、忍耐力、集中力、仲間を思いやる心など、社会への適合性を育み、心身ともに健全な青少年の育成を図ることが大切と考えます。

青少年武徳祭は、勝敗を競うのではなく、自らの修練の成果を発表する場であり、仲間意識や協調性を育む事が出来る貴重な場となっております。

この素晴らしい体験を、出来るだけ多くの方々に知って頂き、今後も多数の団体の方に参加して頂き、多くの青少年の交流の場へと発展していく事を望んでやみません。

最後に、本大会の開催にご尽力された大日本武徳会代表理事濱田鉄心先生をはじめ本部役員の諸先生方に感謝いたしますと共に、本大会に出場された諸先生方の今後益々のご発展、ご健勝を心からお祈りいたします。

第二十四回青少年武徳祭に参加して

日本古武武道協会 拳正会
拳正会空手道連盟 副会長

西野 輝一

この度青少年武徳祭において、三年連続して団体最優秀賞を頂いたことは、大変名誉なことであり、東伏見慈晃総裁、一般社団法人大日本武徳会濱田鉄心代表



理事、そして、関係者の皆様に深く感謝を申し上げたいと存じます。

今回の青少年武徳祭で、各団体の演武を拝見し、いずれの団体もその教義に基づき、気迫のこもった優れた演武を披露されました。これは、大日本武徳会の先生方の永年にわたるご指導の賜物と深く感じ入りました。

時代の変化が激しく、子供たちの余暇の過ごし方が、スマホのゲームなどに変わってきています。その中に合って、今回演武した子供たちは、礼節を身につけ、日本の伝統的な精神を大切にしていることが、演武を通じてよく伝わってまいりました。

今後とも、私ども拳正会は、一般社団法人大日本武徳会の先生方のご指導を賜りながら、空手道を通じて青少年の育成に力を尽くしてまいりたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

